

## 夏の県民交通安全運動

この写真、なんだか分かりますか？ そう、側溝の蓋ふたですね。鉄製の格子の蓋で、グレーチング (grating) といいます。このグレーチング、特に濡れていると恐ろしいほど滑ります。濡れたグレーチングの上で自転車を傾けたため、転倒するケースが多くあります。もともと滑りやすいのですが、濡れると危険性が増します。無事に通過するためには、低速で安全を意識して通り過ぎるしかありません。他にも、マンホールの上、路側帯や横断歩道等の白線なども、アスファルトに比べて摩擦係数が小さいので滑りやすく、注意が必要です。



また、最近の自転車事故で多いのが、前かごに重い荷物を入れていたため起こったケースです。特に坂道などではバランスを崩しやすくなりますので、気をつけてください。

明日11日(土)から20日(月)までの10日間、「夏の県民交通安全運動」が実施されます。自転車は車両であることを再認識し、交差点での信号遵守や一時停止などの交通ルールを守り、安全に通学してください。ヘルメットの着用についても考えてほしいと思います。

## 読書について

来週から期末テストです。個人的な昔の話で恐縮ですが、テスト前やテスト期間中になると、なぜか急に読書がしたくなったり、それまで放っておいた部屋の片付けをしたくなったりということがありました。今なら、ゲームやスマホかもしれませんが、経験ありませんか？

今から思うと、差し迫った課題から逃避したかったのかもしれませんが、テストができないときの言い訳を無意識のうちに用意しておいたのかもしれませんが。「(あの本が面白かったので) 全然勉強してないやあ」や「(部屋の片付けして) 時間がなかったあ」というようなことをテスト前に準備しておくことで、結果に対する保険をかけることができます。うっかり良い結果だった場合には、あまりやらなかった割にはできたなあ、その後の行動に悪影響を与えかねない評価を付けてしまったりします。「できない」言い訳を予め考えておいてやらな

いよりは、「できる」理由を考えながら行動に移していくことの方が、はるかに生産的です。

ところで、読書についてですが、最近は(というよりは、結構前から)、子供や若者に限らず多くの世代で読書離れが進んでいるということなので、テスト前などに無性に本が読みたくなるという人も以前よりは少なくなっているかもしれません。皆さんの読書活動の現状は、どうですか？ やはり少なくなっていますか？

読書は、教養や知識の習得だけでなく人格の形成においても有効であるとされています。読解力や学力を育てることも立証されているようです。ただ、「読書」という言葉からそれぞれの人がイメージする行為については、人によって違いがあるようです。先ほど、皆さんの読書活動について問いましたが、皆さんにとって「読書」とはどのようなものですか？ 詳しく聞き取りをしたわけではありませんが、小説や一般教養書などの「本」を「読む」ことが「読書」であるという認識には、あまり違いがないようです。しかし、「マンガ」となると若干ニュアンスが異なるようです。「新聞」も同様でしょうか。「教科書」はどうでしょう。

マンガですが、数年前に『漫画 君たちはどう生きるか』がベストセラーとなって話題となりました。記憶にある人もいると思います。私のような世代には、吉野源三郎の小説の方を思い浮かべますが、マンガの方で読んだ人もいないのではないのでしょうか。「読書」に値するものだと思うのですが、どうでしょう。新聞のコラムを読むことは読書という感じはしないかもしれませんが、コラムを集めた本を読んだら読書になるような気がします。最近では、紙の「本」以外に電子書籍を利用している人も多くなっています。

こうしてみると、あまり堅苦しく考えずに、広く本などを読む行為を読書ととらえ、それに親しむ時間を増やしていくことで、楽しみや感動、分かる喜び、自分とは異なる考え方を知ったときの心の動きなど、読むことを通して得られる経験を重ねていくほうがよいような気がします。期末テストが終わったら、教科書に取り上げられていた人物の本や、授業で興味を持った事柄などについて書かれた本などを、手に取ってはどうですか？ 図書館をのぞいてみてください。生活に楽しみや深みを与えてくれるような思いがけない出会いがあるかもしれません。